



Japan Society of Internship

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2012年度 NO.1

目次

- ・ 第13回大会を開催して
- ・ 第14回大会を開催するにあたって
- ・ 理事会報告
- ・ 2012年度総会報告
- ・ 2011年度事業報告及び決算報告
- ・ 2012年度事業計画及び予算
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 広報委員会報告
- ・ 企画研究WG報告ならびにセミナーのご案内
- ・ 2012年度高良記念研究助成対象者決定
- ・ 楨本記念賞WG報告
- ・ 組織運営WG報告
- ・ 支部活動報告
(北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部)
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 会員情報

第13回大会を開催して

去る9月8日(土)・9日(日)の2日間にわたり、玉川大学(東京都町田市)にて、「インターンシップのこれまでとこれから―秋入学は人材育成の起爆剤となるのか?―」をテーマに、日本インターンシップ学会第13回大会を開催いたしました。非会員の方々も含め100名を超えるご参加をいただき無事終了することができました。関東支部の皆様をはじめ、役員及び事務局の皆様、会員の皆様のご支援のおかげと、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

さて、冒頭の基調講演では公益社団法人 経済同友会副代表幹事・専務理事 前原金一氏をお迎えし、「雇用のミスマッチをどう解消するか〜インターンシップを活用しながら〜」をテーマにお話をいただきました。昨今の就職活動で大学生の大企業志向が高まっている一方で、45万人の就職希望者に対して大企業の採用枠はわずか2万人程度。その需給ギャップへの対応として、前原氏は1)中堅・中小企業と大学生とのマッチングシステムの構築と、2)新卒応援ハローワークの活用などを具体案として挙げられました。

また、引き続き行ったシンポジウムでは、モデレーターである坂野慎二会員(玉川大学)の進行で、前原金一氏、横山隆俊氏(ビー・エス・パートナーズ株式会社 代表取締役)、塚原修一氏(国立教育政策研究所 高等教育研究部・部長)にご登壇いただき、「秋入学を考える」をテーマでお話をいただきました。秋入学により高校卒業から大学入学、そして大学卒業から就職までのそれぞれ半年間に生じるギャップターム(空白期間)を活かしたインターンシップの可能性やあり方を含めて、本シンポジウムでは様々な議論が行われました。会員の方々からも多くのご意見があり、有意義な情報交換が行われました。今回、大会に参加された皆様には、後日、「第13回大会実施報告書」作成し、お送りする予定です。

最後に、次回開催校である北海道武蔵短期大学でのさらなる盛会を祈念し、結びといたします。

(第13回大会実行委員長 折戸 晴雄・玉川大学)

第14回大会を開催するにあたって

第13回大会当日、自分の発表のことを考えつつも、講演の前原先生のお話を伺っていました。すると「ここに北海道武蔵女子短大の先生がいますよね?」と本学に関してのコメントをいただき驚いていたところ、さらに驚愕の事態が待ち受けていました。それは、発表が迫った休憩時、「来年は武蔵短大でできないかな?」という吉本会長からの言葉でした。本学のような小さな短大で、しかも自分のような赴任してわずかの方が担当で大丈夫なのかという不安を抱えながら札幌に戻ることになりました。わからないことだらけでしたが、北海道支部の先生方からもアドバイスをいただき、また、吉本会長にも足を運んでいただき第14回大会を本学で開催させていただくことが決まりました。この場を借りて報告させていただきます。大変光栄なことであると同時に、その責任の重さを痛感しております。大会開催に向け、会員の皆様におかれましては、どうぞよろしく願いいたします。

さて、具体的な内容についてですが、大会日程は2013年9月7日(土)・8日(日)の2日間を予定しております。テーマ及びプログラムにつきましては、現在構想を練っている最中ですので、少しお時間をいただきたいと存じます。会場校となる本学は、第8回大会の開催会場であった北海道大学に隣接しており、JR札幌駅からもバスや地下鉄などで20分ほど、新千歳空港からもおよそ70分の場所にあります。

ここで北海道武蔵女子短期大学について簡単に紹介させていただきます。1967年開学し、現在、教養学科、英文学科、経済学科の3科体制で学生総数が670名ほどの小さな短大です。すぐれた知性、清純な気品、実践への意欲という「知・情・意」を兼ね備えた教養豊かな女性を育成することを教育理想とし、学生と教職員との人間的交流を基盤とする少人数教育を最大の特色としています。また、「土足厳禁」という珍しい校風を持つ短大です。来客の皆さまにも上履きに履き替えていただいておりますので、大会期間中大変恐縮ですが、上履き利用に対す

るご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。
皆様のお越しを心よりお待ちしております。

(第14回大会実行委員長 高橋 秀幸・北海道武蔵女子
短期大学)

理事会報告

2011年度第6回理事会 (6/16@北海道大学情報教育館)

(1)入退会申請者について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2)第13回全国大会の運営について

折戸大会実行委員長より、第13回大会の大会プログラムの概略、今後の予定等について説明がなされ、了承された。

(3)高良記念研究助成の応募状況等について

亀野事務局長より、委員の互選により富田理事が2012年度委員長に就任したこと、研究助成に2件の応募があった旨の報告があった。

(4)年報編集委員会報告

稲永委員長より、年報15号について10件の応募があり、2本が研究論文として採択されたことが報告された。また、第16号から投稿規程について改正の提案があり、了承された。

2012年度第1回理事会 (8/25@キャンパスプラザ京都)

(1)入退会申請者について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2)2011年度事業報告(案)について

2011年度事業報告(案)について提案があり、一部修正の上、同(案)は承認された。

(3)2011年度決算(案)及び監査報告について

2011年度決算案及び監査報告について、原案どおり承認された。

(4)2012年度事業計画案について

2012年度事業計画案について一部修正の上、承認された。

(5)2012年度予算案について

2010年度予算案について一部修正の上、承認された。

(6)高良記念研究助成について

高良記念助成について、同審査委員会の選考結果を踏まえ、2名を助成対象者としていた旨の提案があり、承認された。

(7)理事の交代について

九州インターンシップ推進協議会事務局長の交代に伴い、会長指名理事である中原淳二氏から古賀正博氏(同協議会・新事務局長)への交代についての提案があり承認され、総会に諮られることになった。

(8)第13回全国大会について

折戸大会実行委員長より、大会開催要項、プログラム等について報告があった。

2012年度第2回理事会 (9/8@玉川大学)

(1)入退会申請者について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2)総会議題について

事務局長より、総会の議題についての提案があり、了承された。

(3)次期大会校について

会長より、来年度の全国大会の開催校について、北海道または九州での開催についての説明があり、承認された。

(4)大学間連携共同教育推進事業にかかる協定について

短期大学コンソーシアム九州から「大学間連携共同教育推進事業」に係る連携機関として当学会に協定の依頼がある旨が説明され、協力していくことが確認された。

(事務局)

2012年度総会報告

2012年度総会が、2012年9月8日(土)玉川大学において開催され、以下の報告・審議が行われた。

(1)2011年度事業報告

原案どおり承認された。

(2)2011年度決算報告及び監査報告

事務局長より決算報告、監査報告があり、承認された(詳細は「2011年度事業報告及び決算報告」を参照)。

(3)2012年度事業計画及び予算について

事務局長より提案があり、原案どおり承認された(詳細は「2012年度事業計画及び予算」参照)。

(4)役員交代について(資料5)

会長より中原淳二氏から古賀正博氏への交代について提案され、承認された。

(5)高良記念研究助成について

2012年度採択者の鈴木恵会員、張琳会員への研究助成金及び賞状の授与が行われた。

(6)第14回大会について

会長より、次回の全国大会を北海道または九州での開催を予定している旨の説明があり、承認された。

(7)大学間連携共同教育推進事業にかかる協定について

会長より、短期大学コンソーシアム九州から「大学間連携共同教育推進事業」に係る連携機関として協力していくことが確認された。

(事務局)

2011年度事業報告及び決算報告

「理事会・総会報告」で報告いたしましたとおり、2011年度事業報告及び決算報告について、総会にて下記のとおり承認されました。

2011 年度事業報告

1. 2011 年度事業期間

- ・2011 年 7 月 1 日～2012 年 6 月 30 日

2. 事業の概要

- ・2011 年 9 月 17～18 日 第 12 回大会開催 (会場：鳥取大学、参加者 81 名)
- ・2011 年 11 月 Newsletter No.1 発行
- ・2011 年 12 月 年報 14 号発行
- ・2012 年 5 月 Newsletter No.2 発行

3. 総会

- ・2011 年 9 月 17 日 (鳥取大学)

4. 理事会

- ・第 1 回理事会 2011 年 8 月 23 日 (久留米大学サテライトキャンパス)
- ・第 2 回理事会 2011 年 9 月 17 日 (鳥取大学)
- ・第 3 回理事会 2011 年 10 月 7 日 (北海道大学東京オフィス)
- ・第 4 回理事会 2012 年 3 月 16 日 (九州大学西新プラザ)
- ・第 5 回理事会 2012 年 6 月 16 日 (北海道大学)

5. 各支部活動

(1) 北海道支部

- ・2012 年 3 月 8 日 第 4 回研究会 (札幌国際大学経済センターキャンパス)
- ・2012 年 6 月 16 日 第 5 回研究会 (北海道大学)

(2) 関東支部

- ・2011 年 10 月 8 日 第 2 回研究会 (玉川大学)
- ・2012 年 5 月 26 日 第 3 回研究会 (東洋大学白山第 2 キャンパス)

(3) 関西支部

- ・—

(4) 九州支部

- ・2011 年 8 月 23 日 第 8 回研究会 (アクロス福岡)
- ・2012 年 3 月 16 日 第 9 回研究会 (九州大学西新プラザ：日本キャリア教育学会九州・沖縄地区部会との合同研究会)

6. 2011～12 年度役員選出及び委員会構成の決定

7. その他

- (1) 「2011 年度高良記念研究助成」実施
- (2) 会則の改正
 - ・退会申出期日の変更等
- (3) 規程の制定
 - ・『インターンシップ研究年報』第 16 号研究論文投稿規程の制定
- (4) 広報の充実
 - ・新ウェブサイトの開設
 - ・メールマガジンの発行
- (5) 新たな表彰制度の創設についての検討
 - ・楨本記念賞 WG における検討
- (6) 組織運営のあり方についての検討
 - ・組織運営 WG における検討
- (7) 企画研究の実施
 - ・「インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究」(科学研究費補助金 (B)、2010～12 年度、研究代表者：亀野淳)
 - ・「大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究」(科学研究費補助金 (B)、2011～13 年度、研究代表者：椿明美)
 - ・「国内外における産学連携によるキャリア教育・専門教育の推進に関する実態調査」(文部科学省「先導的 University 改革推進委託事業」(2011 年度、研究代表者：吉本圭一))
- (8) 学会後援・協賛事業 2 件
 - ・社団法人東京都専修学校各種学校協会「第 18 回専門学校教育研究会」に後援 (2012 年 3 月 12 日 主婦会館プラザエフにて)
 - ・九州大学高等教育国際セミナー「実社会と対話する大学教育—インターンシップから職業統合学習へ—」(文部科学省平成 23 年度先導的 University 改革推進委託事業：2012 年 3 月 17 日 九州大学西新プラザにて) (事務局)

2011(平成23)年度 日本インターンシップ学会 収支計算書
(2011年7月1日～2012年6月30日)

【一般会計】				(単位：円)			
支出の部	2011年度予算(a)	2011年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2011年度予算(a)	2011年度決算(b)	予実差異(b-a)
支部活動費用	400,000	400,000	0	会費収入	715,000	1,039,820	324,820
(北海道支部)	100,000	100,000	0	(個人会員)	490,000	740,000	250,000
(関東支部)	100,000	100,000	0	(学生会員)	25,000	40,000	15,000
(関西支部)	100,000	100,000	0	(法人・団体会員)	200,000	259,820	59,820
(九州支部)	100,000	100,000	0				
大会開催費補助	300,000	300,000	0	研究会収入	0	0	0
年報作成費	450,000	277,620	-172,380	書籍・年報等販売収入	7,000	0	-7,000
記念事業費	294,168	294,168	0				
名簿作成費	0	0	0	その他	300	303	3
通信費	150,000	83,654	-66,346	(受取利息)	300	303	3
HP修正・改善費	100,000	38,115	-61,885	(雑収入)	0	0	0
その他運営費	400,000	238,515	-161,485	大会開催費余剰金	0	0	0
役員選挙費	0	0	0	北海道支部余剰金	19,000	19,826	826
				関東支部余剰金	11,000	11,085	85
				関西支部余剰金	17,000	17,522	522
				九州支部余剰金	72,000	72,531	531
予備費	4,286,737		-4,286,737	前年度繰越金	5,539,605	5,539,605	0
次年度繰越金		5,068,620	5,068,620				
合計	6,380,905	6,700,692	319,787	合計	6,380,905	6,700,692	319,787
(当該年度事業のみ)	2,094,168	1,632,072	-462,096	(当該年度事業のみ)	769,300	1,088,556	319,256

【特別会計(高良記念研究助成)】

(単位:円)

支出の部	2011年度予算(a)	2011年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2011年度予算(a)	2011年度決算(b)	予実差異(b-a)
2011年度研究助成金(2件採択)	200,000	200,000	0	受取利息	100	76	-24
振込手数料	1,000	944	-56	剰余金	0	0	0
予備費	348,461		-348,461				
次年度繰越金		348,493	348,493	前年度繰越金	549,361	549,361	0
合計	549,461	549,437	-24	合計	549,461	549,437	-24

2011(平成23)年度 貸借対照表兼財産目録(2012.6.30現在)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	5,417,113	(負債の部)	
手持現金	16,472	流動負債	0
預金	5,400,641	固定負債	0
北洋銀行(一般会計)	1,309,449		
北洋銀行(特別会計)	348,493	(純資産の部)	
郵便振替口座	3,742,699	剰余金	5,417,113
		(一般会計繰越金)	5,068,620
固定資産	0	(特別会計繰越金)	348,493
資産合計	5,417,113	負債・純資産合計	5,417,113

(注) 本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要があるが、
財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

2012 年度事業計画及び予算

「理事会・総会報告」で報告いたしましたとおり、2012年度事業計画ならびに予算について、総会にて下記のとおり承認されました。

2012 年度 年間事業計画

1.2012 年度事業期間:

2012年7月1日～2013年6月30日

2.事業の概要

(1)第13回大会の開催(会場:玉川大学)

2012年9月8日(土)～9日(日)

(2)研究会の開催(各支部年2～3回程度)

(3)『インターンシップ研究年報』15号の刊行

(4)News Letterの発行(年2回)

(5)「2012年度高良記念研究助成」実施

(6)会員名簿の作成

(7)理事、会長選挙の実施

(8)新たな表彰制度の創設

(9)組織運営のあり方についての検討

(10)その他

(事務局)

2012(平成24)年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2012年度予算額	前年度予算額	2011年度実績	2010年度実績	2009年度実績	予算増減
会費収入	小計	2,060,000	715,000	1,039,820	3,894,820	1,840,000	1,345,000
	個人会員(10,000円)	1,230,000	490,000	740,000	2,280,000	1,020,000	740,000
	学生会員(5,000円)	70,000	25,000	40,000	115,000	60,000	45,000
	法人・団体会員(20,000円)	760,000	200,000	259,820	1,499,820	760,000	560,000
事業収入	小計	7,000	7,000	0	16,000	7,000	0
	研究会収入	0	0	0	0	0	0
	書籍・年報等販売収入	7,000	7,000	0	16,000	7,000	0
雑収入	小計	221,300	119,300	121,267	545	276,874	102,000
	受取利息	300	300	303	545	317	0
	その他の収入	0	0	0	0	0	0
	大会開催費剰余金	0	0	0	0	181,154	0
	関西支部剰余金	100,000	17,000	17,522	0	0	83,000
	九州支部剰余金	43,000	72,000	72,531	0	28,363	-29,000
	北海道支部剰余金	78,000	19,000	19,826	0	67,040	59,000
	関東支部剰余金	0	11,000	11,085	0	0	-11,000
当期収入合計(A)		2,288,300	841,300	1,161,087	3,911,365	2,123,874	1,447,000
前期繰越収支差額		5,068,620	5,539,605	5,539,605	3,203,070	2,678,818	-470,985
収入合計(B)		7,356,920	6,380,905	6,700,692	7,114,435	4,802,692	976,015

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2012年度予算額	前年度予算額	2011年度実績	2010年度実績	2009年度実績	予算増減
事業費	小計	1,450,000	1,444,168	1,271,788	1,237,765	1,186,605	-5,832
	研究会開催費	400,000	400,000	400,000	400,000	394,329	0
	研究会費用(関東)	100,000	100,000	100,000	100,000	53,366	0
	研究会費用(関西)	100,000	100,000	100,000	100,000	140,963	0
	研究会費用(九州)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0
	研究会費用(北海道)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0
	大会開催費	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	0
	年報作成費	450,000	450,000	277,620	364,665	328,830	0
	記念事業費	0	294,168	294,168	0	68,977	294,168
	役員選挙費	100,000	0	0	22,050	94,469	-100,000
	名簿作成費	200,000	0	0	151,050	0	-200,000
事務管理費	小計	750,000	650,000	360,284	337,065	413,017	-100,000
	通信費(郵送料等)	150,000	150,000	83,654	120,543	94,928	0
	HP管理費	100,000	100,000	38,115	0	8,000	0
	その他運営費	500,000	400,000	238,515	216,522	310,089	-100,000
	当期支出小計	2,200,000	2,094,168	1,632,072	1,574,830	1,599,622	-105,832
特別会計へ	積立金	500,000	0	0	0	0	-500,000
予備費	予備費	4,656,920	4,286,737	0	0	0	-370,183
当期支出合計(C)		7,356,920	6,380,905	1,632,072	1,574,830	1,599,622	-976,015
当期収支差額(A)-(C)		-5,068,620	-5,539,605	-470,985	2,336,535	524,252	-470,985
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	5,068,620	5,539,605	3,203,070	0

2012(平成24)年度 日本インターンシップ学会 特別会計 予算

特別会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2012年度予算額	前年度予算額	2011年度実績	2010年度実績	予算増減
寄付金		0	0	0	0	0
積立金	小計	500,000	0	0	0	-500,000
	一般会計より	500,000	0	0	0	-500,000
雑収入	小計	100	100	76	12,809	0
	受取利息	100	100	76	139	0
	その他の収入	0	0	0	12,670	0
当期収入合計(A)		500,100	100	76	12,809	-500,000
前期繰越収支差額		348,493	549,361	549,361	737,496	200,868
収入合計(B)		848,593	549,461	549,437	750,305	-299,132

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2012年度予算額	前年度予算額	2011年度実績	2010年度実績	予算増減
高良記念研究助成金		200,000	200,000	200,000	200,000	0
事務管理費	小計	1,000	1,000	944	944	0
	振込手数料	1,000	1,000	944	944	0
	その他	0	0	0	0	0
予備費	予備費	647,593	348,461	0	0	-299,132
当期支出合計(C)		848,593	549,461	200,944	200,944	-299,132
当期収支差額(A)-(C)		-348,493	-549,361	-200,868	-188,135	-200,868
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	348,493	549,361	0

年報編集委員会報告

年報第15号について

年報第15号の発刊が例年より大幅に遅れており、非常に申し訳なく思っております。現状では、編集の最終段階を迎えています。今回は投稿10本のうち、委員会で慎重に検討しました結果、研究論文として2本(いずれも研究ノート)を採択しました。お手元に届くまでもうしばらくお待ちいただきますよう、お願い申し上げます。

年報第16号への投稿のお願い

並行して、年報第16号への投稿をお待ちいたしております。今年度から、従来の研究論文(論文、研究ノート)に加え、学会員の実践事例、文献、調査概要報告などの情報交換の場として「資料の部」でも投稿を募集することになりました。研究論文、資料ともに、締切は2013年1月20日(日)です。研究論文査読充実の観点から、締切が前号より早くなっておりますので、ご注意ください。

年報第16号の研究論文等投稿規程は、第15号巻

末および学会ウェブサイトに掲載いたします。研究論文、資料ともに、投稿規程を守っていない場合には査読・掲載の対象から外すことがありますので、投稿規程をしっかりと守って原稿を作成の上、投稿してください。

企画研究 WG との共催のセミナーへの参加のお誘い

年報編集委員会と企画研究 WG による『日々の実践からの研究企画と論文作成に向けて』と題した学会員限定のセミナーが企画されています。本企画はとの連携のもとで開催されるものです。年末のお忙しい時期ではありますが、ご関心をお持ちの方は奮ってご参加ください。詳しくは本ニュースレター「企画研究 WG 報告」および学会ウェブサイトをご参照ください。

(年報編集委員会委員長 稲永 由紀)

広報委員会報告

「日本インターンシップ学会～10年の記録～」ウェブ掲載のご案内

本学会 10 周年記念事業の一環として 2011 年 3 月に刊行されました「日本インターンシップ学会～10年の記録～」をウェブサイトに掲載いたしました。下記 URL にてご覧いただけます。

<http://www.js-internship.jp/jyunenshi.html>

公募・研究助成関連情報等のウェブ掲載について

本年 7 月より、本学会に寄せられました教員公募や研究助成に関する情報のウェブサイトへの掲載およびメルマガによる配信を開始しました。会員の皆様に有益な情報を、今後も積極的に発信していきたいと考えております。最終的な掲載の可否は広報委員会にて検討される予定ですが、これら関連情報の発信を希望される方は、広報委員会宛にお問い合わせ下さい。

メルマガ配信先アドレスの登録について

学会ウェブサイト上新着情報が掲載されるたびに現在、メルマガで会員の皆様にご案内をしております。新入会員の皆様、また法人会員の皆様で個人アドレスに配信をご希望の場合は、送信先アドレスを記載の上、広報委員会 (jsi.prc@gmail.com) までご連絡ください。

(広報委員会委員長 石田 宏之)

企画研究 WG 報告ならびにセミナーのご案内

企画研究 WG では、より充実した研究、共同研究が実施されていくことを期待して、研究企画へのアドバイス、協力体制充実のお手伝いをしてきました。いま学会活動をもとにした多数の共同研究が企画実施されていることで、WG が一定の機能を果たしていると考えています。しかしながら、他方で年報編集委員会での論文投稿の実態を伺うと、投稿規定の遵守など形式的な課題とともに、内容面の充実が課

題となっているとのことです。学会大会発表に関しても、昨年の鳥取大会の総括セッションで、館昭副会長が「実践の相対化」として指摘されたこととも通じますが、日々の実践をいかに学術研究における省察へと転換するのか、教育実践を研究対象とするわれわれの学会の重要な挑戦であろうと思います。

そこで、この度、12 月 22 日 (土) に東京で、企画研究 WG と年報編集委員会との共催による『日々の実践に基づいた研究企画と論文作成に向けて』のセミナーを企画しました。セミナーでは、企画研究 WG の趣旨に即して共同研究を企画・実施いただいている亀野淳会員、会員の投稿論文を審査し学会誌を編集いただいている稲永由紀研究年報編集委員長、実践をもとにした論文を投稿・発表されている古田克利会員の 3 名に登壇いただきます。フロア参加者との質疑応答を通じたパネルディスカッションを充実させるために、また会場の都合から、定員を 30 名と設定させていただきます。詳細は以下の通りですので、ふるってご参加ください。今後、こうした趣旨のもとえ、順次、各地で様々な会合を開催していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

企画研究 WG・年報編集委員会共催 セミナー

『日々の実践からの研究企画と論文作成に向けて』

① 趣旨

会員が、各自の実践活動を相対化して観察する研究活動を行い、その観察を研究論文としてまとめるために、今どのような課題があるのか、3 名の会員の基調報告をもとにフロアとともに検討していく。

② 日時

2012 年 12 月 22 日 (土) 13:00～17:00

③ 会場

筑波大学東京キャンパス文京校舎 2F 講義室 7 丁 112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1
(丸ノ内線茗荷谷駅下車「出口 1」徒歩 2 分程度)

④ プログラム

・セミナーの趣旨説明

吉本 圭一 (企画研究 WG 委員長・九州大学)

・基調報告

「日々の実践をどう研究するか (仮)」

亀野 淳 (企画研究 WG・北海道大学)

「研究年報の投稿論文の特色と課題 (仮)」

稲永 由紀 (年報編集委員会委員長・筑波大学)

「実践感覚をいかに論文に反映させるか (仮)」

古田 克利 (関西外国語大学)

・フロアを交えたパネルディスカッション

⑤ 申込み方法

申込締切は 12 月 16 日 (日) です。先着 30 名まで。メールにて申込みの受付を行います。メールに、氏名、所属等、返信先アドレスの情報を記入の上、学会事務局 (jsi-sec@high.hokudai.ac.jp) までお申し込みください。

(企画研究 WG 委員長 吉本 圭一)

2012年度(第6回)高良記念研究助成 対象者決定

本学会では、インターンシップに係る研究や実践活動の発展・普及のため、また会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ研究助成を行っています。

2012年度(第6回)研究助成には、2件の応募があり、審査委員会の厳正な審査により、次の2名に対し研究助成を行うことが理事会において決定しました。

- ・鈴木恵会員(横浜創英大学看護学部・助教)
「看護におけるインターンシップの現状と課題」
助成額 10万円、共同研究
- ・張琳会員(九州大学大学院・博士後期課程)
「中国における職業技術師範学院の教育効果—卒業生のインタビュー調査を通して—」
助成額 10万円、単独研究

研究期間は2013年9月末までの1年間で、2013年の大会において研究成果を発表することになります。また、その1ヵ月後までに「研究終了報告書」と「研究経費使用報告書」を学会事務局に提出いただきます。

2011年度助成対象者による研究成果発表

2011年度研究助成を受けた2名の研究成果が、2012年9月の第13回大会(玉川大学)において発表されました。

- ・高橋秀幸会員(北海道大学大学院教育研究院教育学専攻・博士後期課程)
「商業高校における販売実習からインターンシップへの変化」
- ・手嶋慎介会員(愛知東邦大学・助教)
「地域連携による短期インターンシップの実施体制の現状と課題—大学と社会的企業の連携事例の比較調査を中心に—」

なお、2013年度(第7回)の研究助成応募期間は来年4月～6月を予定しておりますが、詳細は次号のNEWS LETTERにてご連絡します。

(高良記念研究助成審査委員長 富田 宏治)

楨本記念賞 WG 報告

楨本賞ワーキンググループ(WG)の初会合を8月25日に開催しました。各委員による意見交換の結果、楨本記念賞の概要について、以下の事項が検討されましたので報告いたします。

1. 楨本記念賞は、研究発表の優劣を評価するものではなく、優れた研究発表成果を会員が広く共有することを目指すものとする。
2. 上記の観点に立って、第13回大会(玉川大)以降、WGが作成する評価票をもとに、委員が参加した大会、研究会での発表を共通の評価目線(活動方針を

参照)で評価し、得られた成果を記録化するものとする。

3. 現時点で集約された成果を概観すると、①環境、②観光、③農業、といった絞り込まれたテーマの研究により教育上の優位性が認められることが導き出されつつある。今後の評価に際し参考にしていきたい。

また、WGの活動方針については、以下の内容が確認されました。

楨本記念賞 WG 活動方針

本WGは、優れた産学連携教育のひとつであるインターンシップが、教育現場においてどのような優れた取組みがなされ、どのような努力や工夫がなされているのか、またどのような人材が育成されているのかという情報を収集し、学会に還元していく役割を担うものである。そのため、WGの各委員は大会ならびに各支部の研究会に参加した際、①学生がどのように育ったのか(どのように育てたのか)、②育った(育てた)要因や工夫は何だったのか、③取組みから何が生じたのか、派生したものがあるか、の3項目をもとに研究発表を分析し、WGに持ち寄るものとする。持ち寄せられた成果をもとに、インターンシップ教育の在り方について意見交換を行い、優れた教育上の取組みや手法を見出すことを目指すものである。

インターンシップの優れた実践事例を会員間で共有できるよう、WGのメンバー一同、精進していく所存です。

(楨本記念賞 WG 委員長 加藤 敏明)

組織運営 WG 報告

組織運営ワーキンググループ(WG)では、委員長 舘昭(以下敬称略)、副委員長 横山皓一の他に石田宏之、太田和男、加藤敏明、亀野淳、沢田隆、長尾博暢、古賀正博(中原淳二と交替)、渡邊和明の10名で組成し、活動しております。

学会設立後10年余が経過、会員も徐々に増加し、また支部も北海道、東京、関西、九州と4支部が設立されるなど活動も活発になってきました。本学会を更に発展させるために、これからの10年を見据えて、学会活動と会則、選挙制度の在り方、全体活動と支部活動の在り方などを再検討すべく、協議を進めております。

多忙のため、メンバーが一堂に会する機会がありませんが、メンバーの意見集約もほぼ出来ましたので、年内にはWGとしての素案を作成、理事会に諮りたいと思っております。

なお、舘委員長の体調の都合により、当面の間、副委員長(横山)が委員長を代行することになりました。

(組織運営 WG 副委員長 横山 皓一)

支部活動報告

北海道支部

北海道支部 2011 年度第 2 回研究会を開催

2012 年 6 月 16 日(土)に 2011 年度 2 回目となる研究会を北海道大学情報教育館にて開催いたしました。北海道支部会員や学会理事の方々を中心に 30 名の方に参加いただきました。

今回はテーマを「地域で期待されるインターンシップの役割」と設定しました。年々インターンシップの役割は多様化しており、その期待は企業だけにとどまらず地域社会へと広がりを見せています。地域コミュニティや農業において、インターンシップの視点で取り組まれている事例を 3 名の方に報告いただき、参加者とのディスカッションを行いました。

地域企業を中心とした小中学生向け就労体験の事例として山田翔子氏(北海道大学大学院)から「札幌市白石区による初中等教育での職業体験システム」の報告を、また田崎悦子会員からは「農業インターンシップアンケートによる調査結果報告」が発表されました。さらに、農業体験・研修を積極的に受け入れ、新しい農業経営を模索する大塚裕樹氏(大塚ファーム)より「農業インターンシップの変遷」についてご講演いただきました。軽快な大塚氏の話により、会場は笑いに包まれながらも、普段は目にする事の少ない農業研修・新規就農者の実情など興味深い話題が報告され、会場の参加者も聞き入っていました。

北海道支部では 2013 年 2 月・6 月に支部総会・研究会を開催する予定です。また 2013 年 9 月の全国大会開催に向けて、実行委員会を組織し、開催校のサポートをして参ります。

(北海道支部事務局・広報委員 小林 純)

関東支部

関東支部 2011 年度第 3 回研究会

統一テーマに「先端的分野のインターンシップ-グローバル化に対応する接続効果と実践上の課題-」を掲げた関東支部第 3 回研究会は、2012 年 5 月 26 日に、東洋大学白山第 2 キャンパスで開催され、大学、実業界から 60 名の研究者のご出席をいただきました。

基調講演は、「PBL 型インターンシップのキャリア形成効果」をテーマに東京大学大学院教授の岡田文雄会員により行われました。岡田会員は、東京大学大学院工学研究科において実施している PBL 型インターンシップの位置づけ、グローバルな感覚を持った人材の育成という目的、学部、大学院での産学連携教育が、企業、学生双方からきわめて高い評価を受けている旨講演され、出席者に深い感動を与えられました。また、元プレーメン経済工科大学生 Andreas Seidler 氏、日本大学工学部教授の小田部

氏、桜美林大学の塩谷さやか氏などから、インターンシップについて先端的で高度な報告がなされ、質疑も活発に行われました。

関東支部会報 No. 1 の発行

関東支部発足の背景、経緯をまとめた関東支部会報 No. 1 が発行され、日本インターンシップ学会に出席した会員に配布されました。

第 13 回全国大会支援

2012 年 9 月 8 日、9 日に玉川大学で第 13 回大会が折戸晴雄実行委員長のもと開催されました。副支部長でもある折戸会員に対し、支部としても側面的ながら、研究会の円滑な運営などの支援に務めました。折戸実行委員長の熱意に加え、会場校となった玉川大学の教職員・学生スタッフの皆様の多大な協力を得て、高水準の研究発表が相次ぎ、盛況のうちに大会を終えることができました。

(関東支部支部長 太田 和男)

関西支部

関西支部第 7 回研究会を開催

本年 4 月から関西支部では、支部長が加藤敏明会員(立命館大学)から私(近畿大学)に交代しましたほか、副支部長も一新しました。2005 年設立の当支部では、これまで年に 1~2 回の研究会を開催し、主として学校種別の取組みを研究してきました。その一巡を受け、新体制では、「インターンシップ教学の現場で活躍する教職員に資するアカデミックな知見、情報提供を活動の柱に据える」ことを新たな活動方針とすることにしました。

その第 1 弾として、2012 年 8 月 24 日(金)の夕方、第 7 回研究会「インターンシップ教学の現場から」を大学コンソーシアム大阪において開催しました。当日は、京都産業大学と立命館大学の優れた学部生向けインターンシップの取組み事例について、事前・事後研修のノウハウや学生へのアンケート結果などを含めて、担当教員から開示されました。出席者は大学関係者を中心に 27 名と盛況で、活発な質疑応答がありました。

このうち、京都産業大学(副支部長・松高政会員が発表)については、昨年度から始めたハイブリッド方式(中堅中小企業の若手社員 1 名を同大学に派遣して貰って学生 3 人とチームを作り、各企業の課題解決を図って、上司の前で報告する方式)が企業側の人材育成メリットを一段と高める工夫として、質疑でも大きな関心となり、強く印象に残りました。また、立命館大学(副支部長・廣瀬幸弘会員と前支部長・加藤敏明会員が発表)については、インターンシップ参加予定者向け事前研修として、受講生千人(単位希望の 4 百人に限定しない)を相手に、財務諸表の読み方を含めて、きちんと事前教育を行っていることに、感銘を受けました。

今後も、当支部では、上記活動方針の下、実践的な優れた取組みを紹介していきます。

(関西支部支部長 安孫子 勇一)

九州支部

九州支部 2012 年度第 1 回研究会

九州支部を設立して 4 年が経過しましたが、これまでに様々なテーマで研究会を実施してまいりました。そしてこの度、平成 24 年 11 月 16 日(金)に通算第 10 回となる九州支部研究会を開催します。テーマは「多様化するインターンシップとその効果」として、長期インターンシップ、課題解決型インターンシップ、探索型インターンシップの 3 種類の事例・成果報告を行います。学生の職業観醸成、企業側の若手教育、学生の学習意欲を喚起するための大学教育など、様々な目的の下に様々なカテゴリーのインターンシップが展開されるようになってきましたが、成果や効果に関する研究蓄積が浅いのではないかと、という問題意識に立脚しつつテーマを設定させていただきました。加えて、長期インターンシップ事例では中間支援組織の役割について、課題解決型インターンシップ事例では教職協働・学内展開、探索型インターンシップでは公的機関による支援の在り方、という伏線となるテーマが潜んでいます。

また、組織変更などから新しい展開を始められつつある九州インターンシップ推進協議会の展望についてもお話いただきます。このように九州支部では毎年様々な角度からインターンシップを捉えていくとともに、大学と企業の交流の場の創造に努めていきたいと考えています。

(九州支部副支部長 真鍋 和博)

事務局からのお知らせ

会員情報変更の連絡について

所属・住所等が変わりましたら、速やかに事務局宛お届けください。連絡先が不明になりますと、年報、ニュースレター、大会案内などの会員サービスが受けられなくなりますので、ご注意ください。

また、皆様から返信された「会員情報調査票」をもとに、来年 1 月頃、会員名簿の作成を予定しております。名簿掲載事項や名簿掲載の可否について変更がある方は、お早めに事務局まで連絡願います。

会費納入のお願い

2012 年度会費納入を受け付けております。会費未納の方は、今回お送りいたしました郵便振替用紙か郵貯銀行からの振込（ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です）で、下記振込先までお送り下さいますようお願いいたします。銀行振込でも受け付けております。

会費納入先

【郵便振替】

口座番号 02750-1-108419

加入者名 日本インターンシップ学会

【ゆうちょ銀行】

店番 279 (当座) 108419

【銀行振込】

北洋銀行 北七条支店 (普通) 3927955

受取人名 日本インターンシップ学会

(電信振込の場合は、「ニホンインターンシップガッカイ」と入力下さい。)

理事選挙の予定について

2013～2014 年度理事選出のための選挙を 2013 年 4～5 月に実施する予定です。同選挙における選挙権及び被選挙権は会費納入済みであることが条件となっておりますので、未納入の会員は至急納入願います。同選挙の詳細は、今後、学会ウェブサイト、郵送等で案内をいたしますので、よろしく願いいたします。

(事務局)

日本インターンシップ学会 News Letter 2012 No.1

平成 24 年 11 月 18 日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 石田 宏之

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 亀野 淳

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部 キャリア教育支援室内

E-mail jsi-sec@high.hokudai.ac.jp 電話&FAX 011-706-5147

Website <http://www.jsi-internship.jp/>